

一軒の家からはじめる景観まちづくり



茅ヶ崎市

# 茅ヶ崎らしさを考え、まず身の回りから

私たちのまち茅ヶ崎をより快適で、価値あるまちにしたいと思います。  
自分の住む家が、家並み、まち並みへとつながり、  
まちの景観を構成する重要な役割を果たしていることをイメージしてみてください。

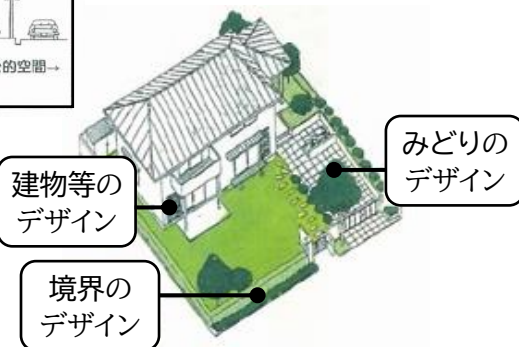
## 半公的空間を考える

私的な空間である民地であっても、庭先や玄関前、建物の外観などはまち並みを左右し、景観を構成する要素となります。したがって、こうした公的空間に接する部分は「半公的空間」ともいえます。

「一軒の家からはじめる景観まちづくりの方針」は、地域の景観に大きな影響を与える半公的空間の質を高め、茅ヶ崎らしいまち並みを形成していくことを目的に定めた考え方です。



半公的空間での配慮事項

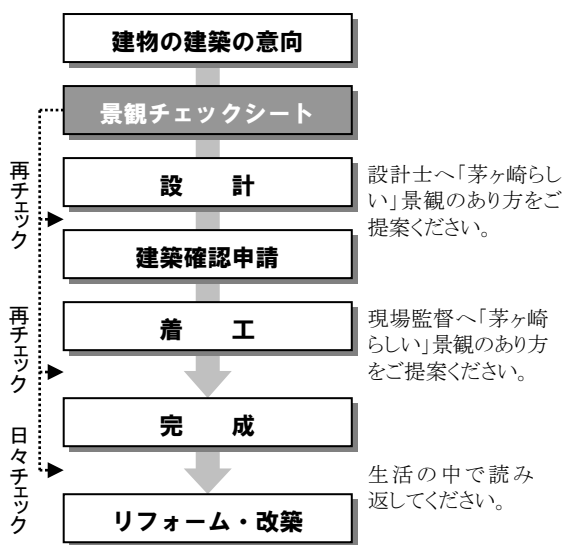


## 景観を自己チェックする

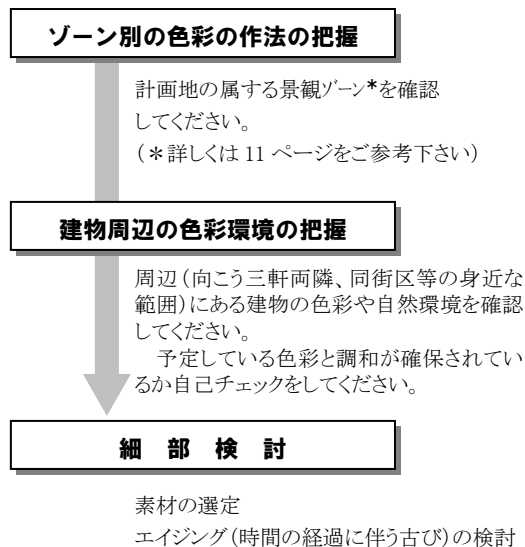
建物の建築や日常のメンテナンス等の際に、市民や事業者の皆さんが茅ヶ崎の景観まちづくりの一員であることを考え、行動できるように、「一軒の家からはじめる景観チェックシート」を作成しました。

3 ページからの「景観チェックシート」を参考に自己チェックを行ってください。なお、建築物が地域性に配慮し周囲と調和したものとなるように、色彩については、10 ページを参考に、次の考え方でチェックを行ってください。

### ▼景観チェックの流れ



### ▼色彩チェックの流れ



## 景観ゾーンを確認する

茅ヶ崎市景観計画では、市域を4つの景観ゾーンに分類し、それぞれ地域別の景観まちづくりの考え方を示しています。

「一軒の家からはじめる景観チェックシート」には、景観ゾーンごとの特性に合わせた考え方を示す部分もあります。

北部丘陵地域景観ゾーン



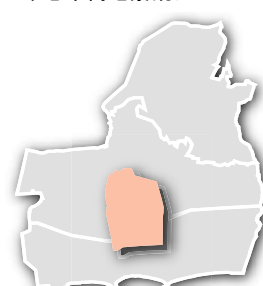
中部地域景観ゾーン



海岸地域景観ゾーン



中心市街地景観ゾーン



# 一軒の家からはじめる景観まちづくりの方針

地域の景観に大きな影響を与える「半公的空間」の質を高め、茅ヶ崎らしいまち並みを形成していくためにも、戸建住宅など小規模の建築物の建築においては以下の三つの観点を共通の方針として定めます

## 1. 境界のデザイン

### ○連続性に配慮する

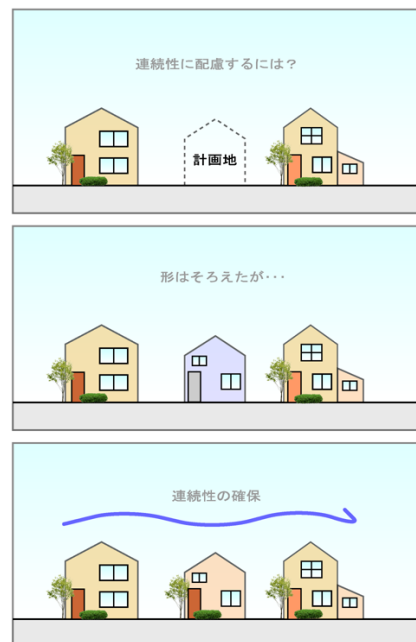
玄関やアプローチ部分はそれぞれの家の顔となる部分であり、まち並みの顔でもあります。まわりの家の造りとの調和を図ることによって良好な関係を創出し、まち並みを豊かにするようにしましょう。

### ○門、塀、生け垣を工夫する

道路と民地の境となる門や塀などは、まち並みを構成する上で最も重要な要素であり、デザインの工夫や、緑化によるうるおいの演出などを心がけましょう。また、管理上の問題から閉鎖的になりがちな場合にも道路からの見え方に配慮し、まち並みに貢献するようにしましょう。

### ○駐車場をまち並みに調和させる

道路に面して配置されることが多い駐車場は、接道部の植栽などの工夫により、周辺のまち並みにとけ込ませるようにしましょう。



玉石垣と生垣を用いた茅ヶ崎らしい境界

## 2. みどりのデザイン

### ○地域のシンボルツリーを活かす

既存の大きな樹木は地域のまち並みにとても大切な要素です。できる限りそのままの形で残し、まち並み形成に活かすようにしましょう。

### ○庭木の手入れにも気を配る

道路から見える庭はまち並みの一部として捉え、庭木などの手入れにも気を配り、常に美しい状態を維持できるようにしましょう。



既存樹木の継承

## 3. 建物等のデザイン

### ○建物配置を工夫することでまちの表情を豊かにする

まち並みの連続性に配慮しながら、住宅地としての落ち着きやうるおいが生まれるよう、隣棟間隔や出入口の位置など、建物の配置に配慮しましょう。

### ○看板や商品で茅ヶ崎らしさを演出する

看板や商品は情報の発信源として重要ですが、これらが氾濫し、それぞれが目立つことだけを考えると、宣伝効果が減少し、まち並みを乱すことにもなります。まち並みに配慮しながら、メーカーが供出する規格品を避け、店主のこだわりを感じさせるお洒落な看板を掲出するようにしましょう。



まち並みに配慮したお洒落な看板

# 一軒の家からはじめる景観チェックシート

気になる景観づくりのチェックポイントを幅広くご紹介。  
お隣さんへ教えたいくなるヒント満載。景観トモダチになれること間違いナシ！

## 1. 境界のデザイン

### ◆ 造成（土地の区画形質の変更）

チェック項目

- ✓ 土地の形質の変更はできる限り避け、自然の地形での計画に努める。

敷地の高低差は、盛土をして植栽を立体的にすることで解消できます。



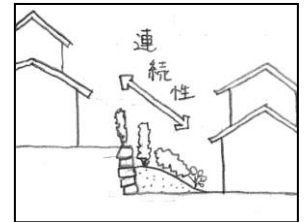
（ただし、排水に注意しましょう）

- ✓ 隣接する敷地との連続性に配慮し、過度の段差や急勾配の斜面などを造らないように努める。

段差は段々畑のように小刻みに吸収することで保水性のある傾斜地となり、



崖崩れ防止にも役立ちます。



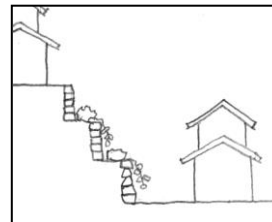
盛土による連続性の創出

- ✓ 擁壁は勾配を持たせたり、ひな壇にして植栽を設け、圧迫感の軽減に努める。

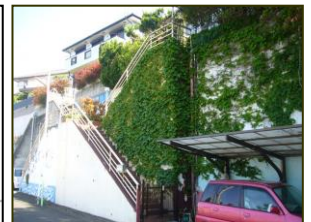
擁壁は自然石を使用したり、塗装やタイル等の仕上げを行うと、



まち並みに表情を持たせることができます。



傾斜地の有効利用を考える



擁壁の緑化

### ◆ 駐車場

チェック項目

- ✓ 角地に駐車場を設ける場合、生垣を配するなどの工夫により、まち並みの景観形成に努める。

生垣で敷地に境界を作る場合は、1年を通して「緑が切れない」樹種を選ぶこと



がポイントです。

例として、アラカシやカナメモチなどの常緑樹があります。



常緑のマキの活用

- ✓ 駐車場の敷地を全てアスファルトやコンクリートで覆わず、一部に芝生や地被類を植えて緑化を図るなど、景観に配慮する。

タイヤ敷き以外の部分を砂利や芝生・笹などの地被類にすると緑地面積が増



え、

うるおいある景観の形成に貢献できます。

枕木などの自然素材を敷くことも柔らかい雰囲気となり効果があります。



駐車場の地面に芝生を植える

- ✓ 潮風（南風、西風）や台風による塩害に配慮する。

潮風を避ける位置にカーポートを配置するなどの対応が必要です。



コストはかかりますが、ビルトインガレージにする方法もあります。



ビルトインガレージ

## ◆ 門、塀、生垣、アプローチ

チェック項目

### ✓ 門廻りの素材や植栽などのデザインを工夫し、まち並みの景観形成に努める。

ヒント

門を道路よりも奥に設けて植栽スペースを配置すれば、うるおいある景観の形成に貢献できます。敷地が狭小な場合は、駐車場と玄関前のスペースを一体化して、門や塀を設けない方が空間に奥行きがでます。



門周りの素材や植栽の工夫

### ✓ 塀の素材やデザインを工夫し、まち並みの景観形成に努める。

ヒント

壁面をコンクリートにする場合は、部分的に木材のフェンスや格子にするなど、素材や色彩に変化を持たせると壁面にリズム感が出て、風も抜けるようになり植物の生育環境が向上します。



塀のデザインの工夫

### ✓ 植栽による生垣を増やし、まち並みの景観形成に努める。

ヒント

狭小敷地の場合は、なるべく葉が小さい種類を選択すると繊細なイメージとなり、建物との調和が保てます。(葉が大きいと雑な感じになります)



植栽による生垣

### ✓ 花や低～中木類を駆使して、オープンな外構による開放的な空間の形成に努める。

ヒント

一年を通じて「緑が切れない」ように常緑樹を中心に植栽して、ある程度庭の骨格を作ってから足元の地被類や低木などを密に植えると境界線をきれいに見せることができます。



低～中木を利用した開放的な境界づくり

### ✓ 道路から玄関口までのアプローチの景観形成に努める。

ヒント

道路から玄関までのアプローチを長く取り、植栽や踏み石、照明などに配慮すると奥行きのある路地風の空間に仕上がります。



玄関までの長いアプローチ

### ✓ 旧別荘地域では、塀、生垣をできる限り低く保ち、開放感の演出に努める。

ヒント

塀に玉石垣や大谷石を、また竹垣や生垣(ラカンマキなど)を用いると、茅ヶ崎の旧家らしい趣きを演出できます。



塀に竹垣を採用した例

## ◆ 自動販売機

チェック項目

### ✓ 住宅地での自動販売機の設置はできる限り避け、設置する場合は側面を植栽するなど、まち並みとの調和に努める。

ヒント

自動販売機を複数隣り合わせて設置する場合は、色彩の統一や、一体的なデザインの囲いをするなどで、まち並みとの調和が図れます。



周辺と一体的なデザインとした自動販売機

## 2. みどりのデザイン

### ◆外構及び緑化

チェック項目

#### ✓ 沿道や角地などのわずかなスペースの緑化に努める。



敷地に余裕がなく、緑地の幅があまり取れない場合、生垣の代わりにネットフェンスを立てて、それにツル植物を絡めると、比較的薄い生垣状のものができます。



角地の緑化

#### ✓ クロマツを中心に、樹形の良い既存の中高木は極力保存に努める。 敷地内に高木が植えられるスペースの確保に努める。



特に道路側に向かって樹勢があり、道路景観の形成に寄与しているものは積極的に保存しましょう。



クロマツのある道路景観

#### ✓ 潮風(南風、西風)や台風による塩害に配慮する。



クロマツやイヌマキなどは耐潮性が高く、昔から海岸地域で使われる樹種です。

#### ✓ 建物の質感にあった植栽に努める。



コンクリートのような重厚なイメージのある建物は、広葉樹を中心に柔らかいイメージの樹種にするとバランスが取れます。



建物の質感に合った樹種

#### ✓ 建物の印象を和らげる植栽に努める。



コンクリートのような重厚なイメージのある建物は、建物の角が隠れる位置に樹木を植えると柔らかい印象になります。

#### ✓ 建物の色彩に調和した植栽に努める。



外壁の色が濃い場合はエゴノキやシャラノキなどの明るい緑色を、一方、外壁が白っぽい場合はツバキやクスノキなど濃緑色の葉を持つ樹種を植えるとバランスが取れます。



壁の色と植栽との調和

### ◆水辺との関係

チェック項目

#### ✓ 水辺のある方向にテラスや植栽などを配し、親水性や開放感の創出に努める。



フェンスや塀などの構造物で境界を設けるよりも、樹木で境界をつくることにより、より開放的な空間をつくりだすことができます。

河川側オープンスペースの緑化



### ◆維持管理

チェック項目

#### ✓ 庭木の手入に努める。



常緑樹で花や実が目立たない樹種を中心に植栽すれば手間があまり掛かりません。また、葉の色が白くまだらなものを取り入れれば、明るい印象になります。



常緑樹を中心とした植栽

### 3. 建物等のデザイン

#### ◆配置及び規模

チェック項目

#### ✓ 建物の配置を工夫してまちの表情を豊かにするように努める。

隣接する建物と壁位置をずらすことで小さな庭が確保できる場合があります。



1坪あれば小さな庭のしつらえが十分に可能です。



開放的な空間の演出

#### ✓ 隣接地の現状を把握して、設計に活かすように努める。

隣家に樹形の良いシンボルツリーや手入れの良い生垣、香りの良い樹木などがあれば



アプローチに取り入れるなど、「景観を借りる(借景)」こともできます。



隣家の樹木を借景する

#### ✓ 隣接地と相互に協力し、潤いとゆとりある空間の創出に努める。

隣家と協力して同じ植物を植えたり、敷石の色彩を合わせたりすることで、隣の敷地の



分まで空間の広がりを楽しむことができ、コミュニケーションも進みます。



隣家と共通の植栽

#### ✓ 周辺にある水辺、丘陵地などへの眺望を阻害しない配置や規模の検討に努める。

河川や丘陵など空間的に広がりある景観を借景することで、



敷地にさらに広がりある景観を取り込むことができます。



眺望景観への配慮

#### ✓ 商業・業務用のサービスヤード、ストックヤードなどは、通りから見えにくい配置に努める。

建物自体による遮蔽のほかに、植栽による遮蔽も敷地に潤いを与えるので効果的です。



#### ✓ 街角(辻)広場などの人々の滞留空間、憩いのゆとり空間の確保に努める。

市民がまちなかで自由に憩えるベンチやテーブルなどを置くことで、ゆとりと賑わい



ある景観づくりに貢献でき、茅ヶ崎の都市イメージの向上につながります。



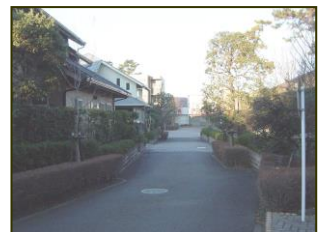
ゆとりの空間の創出

#### ✓ 建物の前面に空地などを生み出す工夫(壁面後退)等によるゆとりある歩行空間の確保に努める。

市民が余裕をもって安全に歩くことのできる空地を設けることで、ゆとりと賑わいある



景観づくりに貢献でき、茅ヶ崎の都市イメージの向上につながります。



壁面後退によるゆとりある歩行空間

#### ✓ 歩道と連続した歩行者空間などを配置する場合は、縁石の段差などの内容に配慮し、一体的な空間となるように努める。

空地と道路などの公共施設のデザインを合わせることで、ゆとりある景観づくりに



貢献でき、茅ヶ崎の都市イメージの向上につながります。



歩行者空間と一体化したゆとりある空間

- ✓ 周辺から突出するような規模の大きな建物等(駐車場を含む)は、分節化するなど圧迫感の軽減に努める。



建物を分節化することで周囲に対して圧迫感を軽減できるとともに、プライバシーも確保できる利点があります。



大規模建築物の分節化

- ✓ 周囲への眺望を阻害しない形態意匠を検討する。



設計の前に、地域住民が大切にしている眺望景観がどの方向に開けているか確認してみましょう。



眺望景観を考慮した形態

- ✓ 住宅の屋根形状は勾配屋根を基調とし、丘陵地等の稜線との調和に配慮する。



崖線のみどりと調和した屋根の色を選択しましょう。また、旧家の建築手法のように軒線を崖線のラインと平行にすることにより、地形となじむ景観をつくることができます。



背後の丘陵との調和

- ✓ クロマツ(針葉樹)の多い地域では、建物の質感に配慮する。



松や杉などの針葉樹は、樹木自体が硬い印象をもつので、コンクリートのような硬い素材との相性はあまり良いとはいえません。落ち着いた暖色系の色を中心とした外観にすると、バランスが取れます。



落ち着いた暖色系の色彩と針葉樹の調和

- ✓ 住宅の屋根形状は勾配屋根を基調とし、周辺との調和に配慮する。



旧別荘地の古い建物の中には、勾配屋根を用いた洋館タイプのものもあります。



勾配屋根を基調とした住宅

- ✓ 窓などの開口部の配置を工夫する。



敷地が狭小で、隣地や道路との距離が近い場合は、窓の位置、高さなどを工夫して採光・通風を取るようすればプライバシーは確保しやすくなります。



開口部を高めに設定した住宅

- ✓ 低層部の商業施設は、開口部などを設け、ディスプレイを工夫するなど賑わい形成に努める。



季節感を表した備品や照明類の使い方、色彩等の工夫により、まち並みに彩りを与えることとなります。



茅ヶ崎らしさを表すディスプレイ



## ◆外観の色彩

チェック項目

- ✓ 戸建住宅が多い地域のアパートや規模の小さなマンションは、規模や用途において周辺から突出するので、落ち着いたある低彩度の色彩を基調とする。



劣化や退色がなくメンテナンスフリーの安定した外壁材の中にも落ち着いた色合いのものが増えてきています。



低彩度の色彩を基調としたアパート

- ✓ アクセントカラーは、色彩の与える印象に配慮しつつ、効果的な使用に努める。



赤、青、黄などの原色やピンクや紫などの個性的な色を用いる場合、壁や屋根など面的にボリュームのある部分ではなく、線状の部材(柱・梁、格子や樋など)やドアなどの小さい部材に用いるとアクセントとして効果的です。



アクセントカラーを用いた住宅

- ✓ 基調色を2色用いたい場合は、色彩の与える印象に配慮し、効果的な使用に努める。



1階部分と2階部分の壁色を変えたい場合、低層部分を濃い色にすると落ち着いた印象になります。またストライプ状に色彩を用いたい場合は、片方を推薦色(P11 参照)とし、もう片方を同系色にすると柔らかい印象になります。



基調色を2色用いた住宅

- ✓ 北部丘陵地域景観ゾーンでは、湘南ののどかな里の緑や石・土の色等と調和するように、温かく落ち着いたある暖色系を中心とした配色に努める。



このゾーンには市指定重要文化財である旧三橋家住宅、旧和田家住宅があります。これらは土壁を基調に土や木の素材色を活かした昔ながらの親しみやすい配色となっています。色彩計画の参考にしてみてください。



みどりや土と調和した暖色の色彩

- ✓ 中部地域景観ゾーンでは、後背の丘陵地の緑や周囲の畑等と調和するように、温かく落ち着いたある暖色系を中心とした配色に努める。また、丘陵からの眺望に配慮するために、屋根は明るさや鮮やかさを抑える。



このゾーンでは、白系やベージュ系の穏やかな色合いの住宅地が良好な景観を形成している例が多いので、色彩計画の参考にしてみてください。



白系やベージュ系の色彩の住宅

- ✓ クロマツをはじめ、多彩で深い色合いの木々の緑が生き生きとみえるような、色彩の使用に努める。



外壁の色が濃い場合、明るい緑色の樹種にすると調和が取れます。一方、コンクリートや白い壁の場合は、濃緑色の葉を持つ樹種の方が調和します。



建物の色彩と植栽の調和

- ✓ 沿道では、若干の色味をもった明るい色彩をポイントに使用するなど、光や風を感じる、湘南らしい明るく開放的なイメージの演出に努める。



海沿いのおしゃれな賑わい感を演出するために用いる原色やパステル色などのアクセントカラーは、壁面の広さの1/10以下が好ましい大きさといえ、よいデザインであれば小さいほどセンスが際立ちます。



アクセントカラーの使用

- ✓ **海岸地域景観ゾーンは、クロマツなど周辺の樹木と調和するとともに、重厚で歴史を感じさせる暖色系で中～高明度の配色に努める。**



旧別荘地区に残っている古い建築は、白もしくは土壁と瓦屋根に木の素材色を活かした和風建築が主流です。高砂緑地にある茶室・書院「松籟庵」などを参考に色彩計画に活かしてみてください。



松籟庵の色彩

- ✓ **中心市街地景観ゾーンでは、明るいイメージの駅前空間との調和に配慮し、都市的な洗練された市街地景観を創っていくために、明るい暖色系あるいは無彩色系の色彩を外壁の基調色とするように努める。**



市街地の賑わい感を演出するために用いる原色やパステル色などのアクセントカラーは、壁面の広さの 1/10 以下が好ましい大きさと言え、よいデザインであれば小さいほどセンスが際立ちます。



市街地の景観

### ◆ 外観の素材



- ✓ **屋根、外壁、囲障の素材は、周辺と調和し、できるかぎり自然素材を主体としたものの使用に努める。**



自然素材を用いるときは、風化した時の色合いをイメージしておきましょう。  
(概ね灰色が混じるくすんだ色調になります)

- ✓ **潮風(南風、西風)や台風による塩害に配慮する。**



建物の外部仕上げは、後で部材が取り替えにくい部分には金属類を使わないようにしましょう。  
例えば、外部バルコニー、手すり、フェンス等は木製で腐食に強い材を使用しましょう。



自然素材を用いた外観

### ◆ 屋外照明



- ✓ **居住環境を阻害する照明(採光)器具などを自粛する。**



白色の蛍光灯で均質に照らすよりも、温かみのある白熱灯で間接的に照らすなど工夫しましょう。なお、エネルギー消費の少ない電球を選択しましょう。

### ◆ 屋外設備機器



- ✓ **冷暖房設備の室外機、受変電設備などは通りから見にくい場所に配置し、植栽や囲いなどによる修景に努め、ゆとりをもった設置場所の選定・設計とし、隣家への配慮に努める。**



遮蔽材は外壁の色と合わせてなじませたり、アクセントカラーとして際立たせるなど、色彩計画の一部として早い段階で一体的に考えましょう。



室外機の修景

## ◆維持管理

チェック項目

### ✓ 建物の手入れに努める。



バルコニーやフェンスなどのペンキ塗りを行う際は、建物全体の色彩バランスを総合的に考えましょう。

## ◆屋外広告物・サイン

チェック項目

### ✓ 目立つことを主な目的としたり、必要以上に数や面積を増やすことを避け、洗練されたデザインに努める。



目立つことを主な目的としたり、必要以上に数を増やすことを避けましょう。

地となる部分は彩度を落とし、文字や記号の部分に鮮やかな色を用いると洗練したイメージになります。

### ✓ 愛称通り沿いでは、看板のデザインに茅ヶ崎らしい工夫に努める。



鮮やかな色彩はアクセントとして用いると効果的です。

アクセントカラーの量の目安は全体の 1/10 程度です。

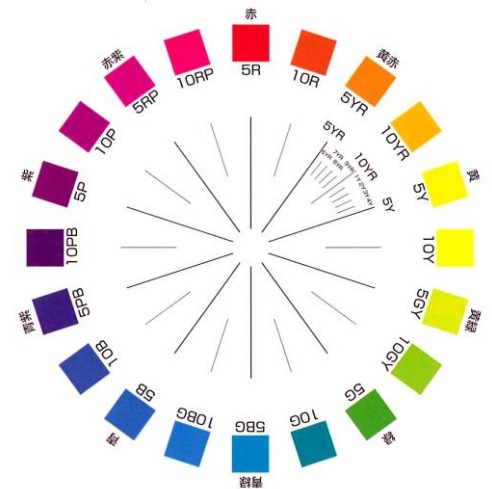


鉄砲道の洗練された広告物

## ■色彩への配慮

茅ヶ崎市景観計画では、景観に大きな影響を与える一定規模以上の建築物等について、周辺や隣接した建築物等から突出しない色彩デザインとすることを基本に、「5つの作法」という基本的な考え方とマンセル表色系を用いた色彩の範囲を定めています。

戸建住宅など規模の小さな建築物等には適用していませんが、参考にしてください。



### ○5つの作法

配慮事項	前提条件
公共性	一定規模以上の建築物等は、そのボリューム感から、一般の建築物に比べ、周囲に対する影響が大きいので、あまり目立ちすぎない、彩度を抑えた穏やかな色彩としてください。
地域性	地域に馴染んだ色彩とするために、景観構造別方針(次ページ参照)に配慮し、現在のまち並みを尊重して全体としての秩序を保つことを前提にした上で、茅ヶ崎にとって魅力ある色彩としてください。
環境	木々のみどりや背景となるみどり、海辺などの周辺環境に配慮し、彩度を低く保つことにより、自然の色合いから突出しない色彩としてください。みどりの多い地域では、極端に明るい色を避け、海辺の地域では、低明度色を避けてください。
意味	色は「暖かい」「冷たい」「伝統的な」「軽い」など、人に共通の感覚を与える意味をもっています。多くの人に共感を与え、茅ヶ崎のイメージと合うと感じる色を選択してください。
安全性	色は「危険」「注意」などの情報を伝達する場合があります。こうした信号や標識に表された機能を確実に伝えることができるように、一定規模以上の建築物等の色彩は控えめなものとしてください。

### マンセル表色系

マンセル表色系は、JIS(日本工業規格)にも採用され、多くの国々で用いられている色彩尺度で、ひとつの色彩を「色相」「明度」「彩度」という3つの属性の組み合わせで表現します。

5	Y	R	6	/	2
色相		明度			彩度

○色の範囲

景観ゾーン	② 基調色 建築物及び工作物の外観の主たる色彩			② 推奨色		
	使用する色相	明度	彩度	使用する色相	明度	彩度
北部丘陵地域 景観ゾーン	10R~10Y	4 以上 9 以下	4 以下	5YR~5Y	5 以上 7 以下	0.5 以上 2 以下
	その他の色相		1.5 以下			
中部地域 景観ゾーン	10R~10Y	4 以上 10 以下	4 以下			
	その他の色相		1.5 以下			
海岸地域 景観ゾーン	10R~10Y	5 以上 10 以下	4 以下			
	その他の色相		1.5 以下			
中心市街地 景観ゾーン	10R~10Y	4 以上 10 以下	4 以下			
	その他の色相		1.5 以下			

推奨色の特徴は、低彩度のYR(黄赤)系とY(黄)系で、明度差を設けている点です。北部丘陵地域景観ゾーンは、低明度で周辺のみどりと調和により落ち着いた景観の創出を、海岸地域景観ゾーンは、明るい海辺の景観の創出を意図しています。

■ 景観構造別方針への配慮

茅ヶ崎市景観計画では市域を 4 つの景観ゾーンに分類し、そのゾーンごとの方針を定めるとともに、景観形成に重要な要素をその性質に併せて「景観ベルト」等に分類し、ゾーンごとにその方針を定めています。建築行為等の際には、これらの景観構造別方針に配慮してください。

北部丘陵地域景観ゾーン

自然と歴史から茅ヶ崎のはじまりを感じる。

- ・自然景観の保全と活用
- ・歴史的資源の保全と活用

中部地域景観ゾーン

生活のひとつ時に自然や歴史を感じる。

- ・良好な住宅地景観の形成
- ・富士山や市街地の眺望の保全
- ・景観資源の保全と活用
- ・地域性に配慮した工業地の景観形成

海岸地域景観ゾーン

海の空気と文化を感じる。

- ・旧別荘地の面影を残す文化的景観の継承
- ・海岸・愛称道路沿道の景観形成
- ・海岸の文化を体感・発信する公共空間づくり

中心市街地景観ゾーン

市民の方も来訪者も集い、賑わう。

- ・活気ある市街地景観の形成
- ・海の雰囲気を感じる沿道景観の形成
- ・魅力ある公開空地や公共空間の創出

景観ベルトの方針

北部丘陵ベルト

特別緑地保全地区やみどりの保全地区などを活用し、みどり豊かな環境や自然景観を保全します。また、市街地や富士山への眺望を確保します。

都市河川ベルト

・洪水調整施設等の治水整備を進めるとともに、生きものが生息・生育する環境の保全・再生や水辺の環境を楽しめる環境整備を進め、自然景観の保全・創出に努めます。  
・千ノ川沿岸の建築物を規制誘導し、富士山の眺望を確保します。

東海道ベルト

・東海道の松並木を保全するとともに、東海道の風格にふさわしい建築物、工作物や屋外広告物の規制・誘導を行い、歴史とみどり豊かな景観形成を図ります。  
・電線類の地中化を進め、安全で快適な歩行者空間を確保するとともに、景観の修景を行います。  
・建築等のデザインを工夫し、JR東海道線からの魅力ある車窓景観を演出します。

相模川ベルト

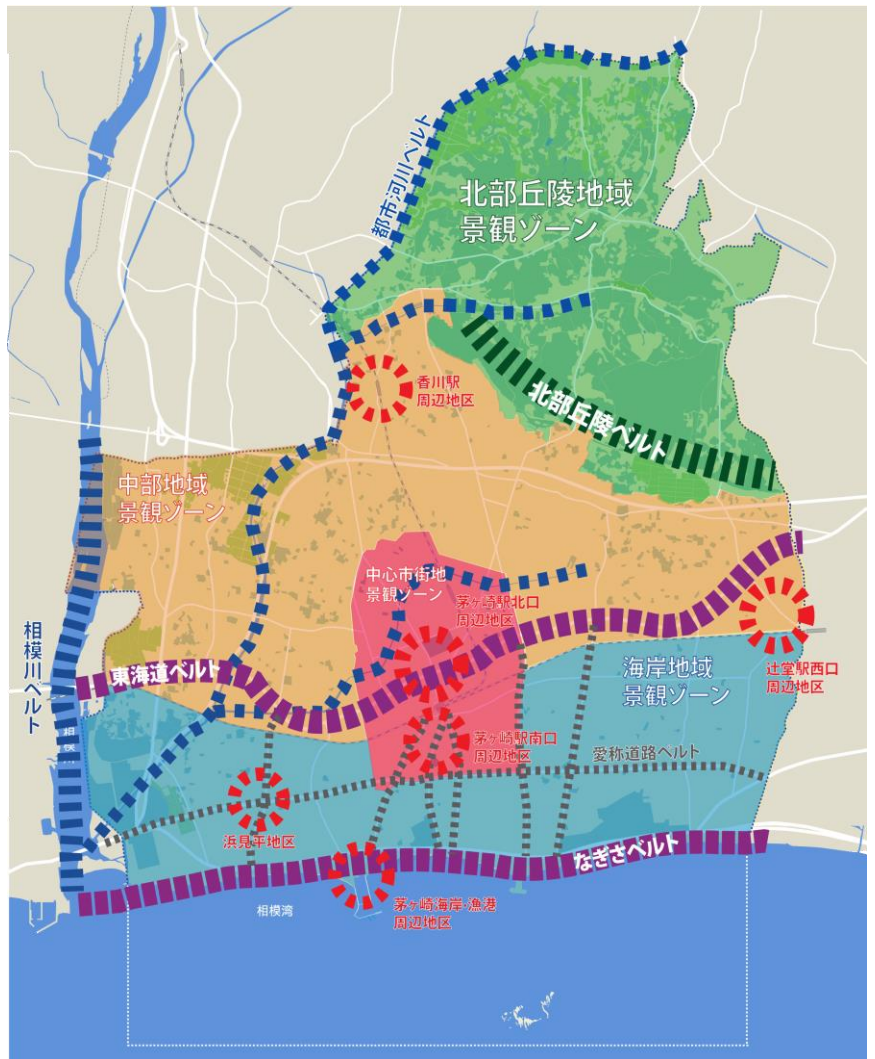
河川敷の生きものが生息・生育する水辺の環境を市民と協働で保全するとともに、自然環境を学ぶための学習機会を創出します。

愛称道路ベルト

・徒歩や自転車で安全に楽しくまちを巡るような環境を整備します。  
・沿道の緑化等を促進し、散策が楽しくなるようおしゃれで雰囲気のある景観形成を進めます。

なぎさベルト

「湘南なぎさデザインガイドライン(神奈川県)」等に基づき、開放的で、軽やかさを感じる景観の形成を図ります。また、公共空間等の整備に併せて、訪れる人々を引き付ける魅力的な景観を創出します。



一軒の家からはじめる景観まちづくり

平成 20 年 10 月  
令和 2 年 9 月

茅ヶ崎市 都市部 景観みどり課  
〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1  
Tel:0467-81-7182(直通) Fax:0467-57-8377